

## ストックホルム地下駅 (Stockholm metro, Stockholm, Sweden)

中央駅を中心にして放射状に伸びているストックホルム市の地下鉄の駅は、意匠を任された芸術家が思い思いの装飾を施しており、個性的な様相を呈している。特に、吹付けコンクリートだけで地下空洞を支保している駅における空間の意匠や装飾を整理すると次のようになる。

- ・ 抽象的なデザインを施した T-Centralen 駅(写真-8)、MorbyCentrum 駅、Stadion 駅
- ・ さまざまな着色していた Stadion 駅、Alby 駅、SolnaCentrum 駅、Akalla 駅
- ・ いろいろな絵柄を書いていた SolnaCentrum 駅、VastraSkogen 駅、Huvudsta 駅、TekniskaHogskolan 駅、
- ・ 落書きをしていた Hallonbergen 駅(写真-9)、Tensta 駅、Alby 駅
- ・ 昆虫や模型を飾った Nackrosen 駅、Gardet 駅、
- ・ 石やタイル等で飾った Nackrosen 駅(写真-10)、VastraSkogen 駅、Akala 駅
- ・ 精巧に作られた彫刻や柱を飾っていた Kungstradgarden 駅(写真-11)、
- ・ 抽象的なモニュメントを飾っていた SundbybergsCentrum 駅、
- ・ 無垢の岩盤を露出させることで空間の装飾として活用している Kungstradgarden 駅、Bergshannra 駅、SundbybergsCentrum 駅

それぞれの担当者が、むき出しの岩盤や吹付けコンクリートに描かれた図柄やタイルや人為的なモニュメントを使いながら地下空間をうまく意匠設計している。多くの担当者は、非日常的な空間を如何にして日常的な空間に演出しようかと悩み、答を見つけ出そうと努力しているように見える。Hallonbergen 駅や Alby 駅では、何か自分が感じる地下空洞の持つ不安感を打ち消すかのように明るく楽しい雰囲気を作っている。ある駅では、地下部と地下部との差異が分からないようにするために、意匠設計を施している。Kungstradgarden 駅では、岩盤や彫刻などをアレンジして、地下空間の荘厳さをうまく醸し出している。どの駅も個性を競っており、見た目を楽しませてくれるが、中でも印象的なのは、Duvbo 駅(写真-12)であった。全体的に暗い空間を間接照明で部分的に明るくし、コンクリートの凹凸によって、抽象的なレリーフを浮かび上がらせている。駅に降り立つと、他の駅にない不安感がかき立てられる。レリーフの一つに近づいて見ると、人のマスクを使って生々しい人が壁の中でうごめいている(写真-13)。地下空間は不安で、神秘的で、すこし怖い。これも地下空間に対する普通の人々が、深層で思い描いているイメージの一つかもしれない。

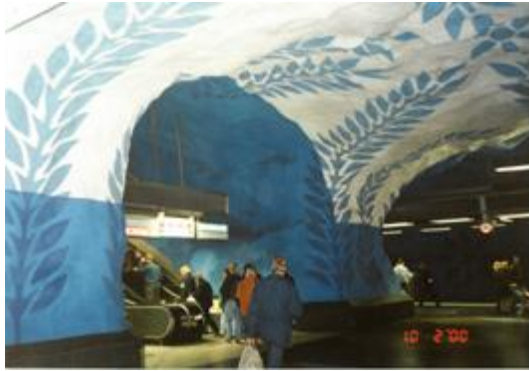


写真-8 デザイン化した鳶を  
無造作に描いている(T・Centralen 駅)



写真-9 白色に塗られた天井や側壁一面に  
子どもの落書き( Hallonbergen 駅)



写真-10 自然石やタイルで装飾  
( Nackrosen 駅)



写真-11 素堀の岩盤に中世的な像や  
橋や柱の配置(Kungstradgarden 駅)



写真-12 電車から降り立つと  
何処か不安な気持ち陥る(Duvbo 駅)

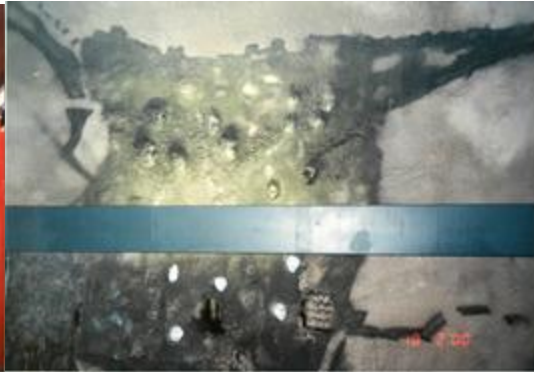


写真-13 人のマスクが埋め込まれている(Duvbo 駅)